

# あき総合病院の救急体制

## 「救急疾患の分類・搬送患者数の推移」

### 救急チームの挑戦



屋上ヘリポート



東部地域の住民の方に安心していただけるよう、今後も救急体制の強化を進めてまいりたいと思っています。

院長 前田 博教

公立病院である当院の使命として、救急医療は地域の医療を守る大事な柱のひとつです。

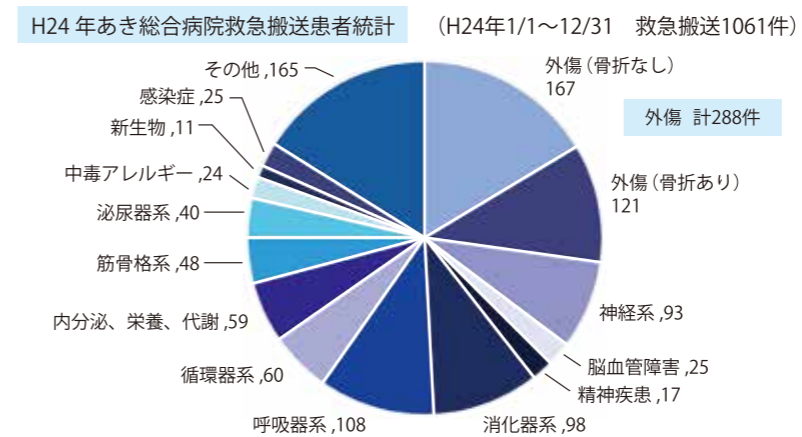
県立あき総合病院での救急搬入件数は例年800件程度で推移していましたが、平成24年度には1000件を超え、平成25年度ではさらにそれを上回るペースで搬入件数が伸びています。(図1)

救急搬送される患者さんの疾患統計をみると、やはり骨折など外傷で来られる方が最も多いです。それ以外にも神経・脳血管疾患系、消化器系、循環器系など、幅広く多岐にわたる疾患や症状の患者さんがおいでになっっていることがわかります。(図2)

医師や看護師など、現場の限られたスタッフでこれら幅広い救急受入れを進めるのは大変だったのですが、本年度からは、救急科の専従医師として鮫島志郎医師が着任し、救急体制が充実してきました。総合病院である当院の各科専門医師と救急医とが協力することで、受入れから治療開始までの迅速な対処が可能となっています。平成26年4月の新病院では、さらに最新の血管造影装置を導入し、とくに循環器系疾患への対応を充実させていきます。

また、新病院屋上にはヘリポートが設置され、当院では対応困難な場合の3次医療機関への搬送も今後スムーズになるものと考えています。

【図2】



【図1】

